

地中海古代都市の研究(114)

メッセネのアスクレピオス神域の入り口について

9. 建築歴史・意匠-4. 西洋建築史

正会員 ○廣田奈津子³⁾ 伊藤重剛¹⁾ 林田義伸²⁾ 吉武隆一³⁾

メッセネ アスクレピオス 入り口 敷居 復元

1. はじめに

メッセネのアスクレピオス神域には扉を備えた入り口がいくつか存在する。このうち、熊本大学の調査隊が2003年までに調査した入り口は、北プロピロン3つ、セバステイオン内部3つ、セバステイオン階段室2つ、南ストア2つの合計10についてである。(図1、表1)

これらの遺構において、過去の調査報告または復元の検討はなされていない。したがって本稿では現状報告と各入り口の比較、また比較的遺構がよい状態で残っているセバステイオン西翼部の階段室入り口周りの復元を試みる。

2. 現在の状況と各入り口平面の比較検討

2-1 概況

敷居の遺構には、通常の場合、立枠の痕跡、軸受けの窪み、門の穴などがある。敷居部材の両端部に立て枠の痕跡と軸受けの窪みが位置し、中央部に近いところに門の穴がある。今回報告する全ての入り口は以上の条件に一致し、また敷居部材は石灰岩の一枚岩から成ることが共通する。

・北プロピロンの入り口 北ストアから階段を上ったところに3つの敷居が一直線に並ぶように位置する。セバステイオンが左右対称であるように、入り口も中央の敷居の両サイドにそれよりも小さな敷居が並んでいたと思われる。西側の敷居は立枠の痕跡、軸受けの窪み、門の穴の東部分1セットが欠損しており、中央と東側の敷居は構成要素が全て揃っている。(図2、7)

・セバステイオン内部の入り口 各部屋を東西に繋ぐ役割を果たしており、敷居は必然的に他の8つのそれよりも90°回転している。西翼部主室と前室の敷居は、後に荒らされたことによって構成要素が全て揃っていない。西翼部主室の敷居は北側の立枠が1/3消えており、前室の敷居においては両方の立枠が残っていない状態である。また構成要素以外の穴が西翼部主室では3つ、前室では5つ認められる。これは後に、扉を片開きにした時のものであると推測する。東側主室の敷居には構成要素が全て揃っている。(図3-5、8、9)

・セバステイオン階段室の入り口 各翼部の中央から端部寄りに位置する。西翼部の敷居は東側の立枠の痕跡が欠損しており、東翼部の敷居では構成要素が全て揃っている。

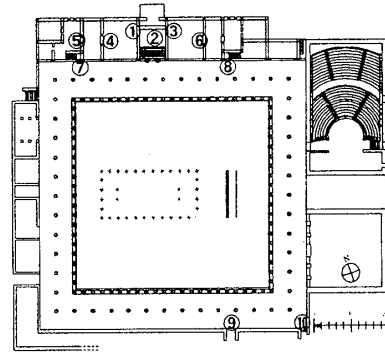


図1 アスクレピオス神域の平面図と各入り口の位置

番号	入り口の名称
①	北プロピロン 西側
②	北プロピロン 中央
③	北プロピロン 東側
④	セバステイオン 西翼部 主室
⑤	セバステイオン 西翼部 前室
⑥	セバステイオン 東翼部 主室
⑦	セバステイオン 西翼部 階段室
⑧	セバステイオン 東翼部 階段室
⑨	南ストア 中央
⑩	南ストア 東翼部

表1 各入り口の番号表

る。(図10a-g)

・南ストアの入り口 これまでの入口とは神域を挟んで対面するように位置する。中央の敷居の遺構は東部分が欠損しており軸受け、門の穴がない。また両端部の立枠も存在していない。東翼部の敷居は構成要素が全て揃っている。(図6)

2-2 比較

・仕様 表1より全ての入り口は、内開きで内側に門の穴がある。

またセバステイオン翼部の2つの階段室敷居は、他の6つの敷居と異なる平面を持つ。6つの敷居が入り口正面から見て立枠の痕跡と軸受けの窪みが縦方向に並んでいるのに対し、階段室敷居ではそれらが平行して並んでいる。これは階段室敷居という特性からくる。他の6つと同じ平面にすると内開きであるため、階段の1段目とぶつかってしまうのである。表1で、階段室敷居の'扉の納まる部分'が充分にあることから分かる。

・サイズ 表1より構成要素の全てのサイズは、北プロピロン中央の敷居、東西翼部主室の敷居において著しく大きいことが分かる。これは重要な入り口ほど大きいという

A Study of Ancient Cities of Mediterranean(114)On Doorsill of Asklepieion at Ancient Messene

HIROTA NAtsuko, ITO Juko, HAYASHIDA Yoshinobu, YOSHITAKE Ryuichi

特性を示している。

・立枠の痕跡 表2よりメッセネの神域において立枠の痕跡にはコの字型、矩形型の2タイプがあることが分かる。2タイプ共立枠の柱をはめるための痕跡であると予想されるが、なぜ入り口によってタイプ分けされているのか、はっきりしたことは分かっていない。

・軸受けの窪み 表3よりセバステイオン階段室敷居の軸受けにはかぶりが出てがある。おそらく全ての敷居にかぶりがあり、軸受けが簡単にはずれないように工夫されていたと思われる。

・門の穴 セバステイオン東翼部階段室敷居の門の穴には鉛が流し込まれ、鉄の棒を固定していた。これは門のストッパーの役割をしていたものと推測される。

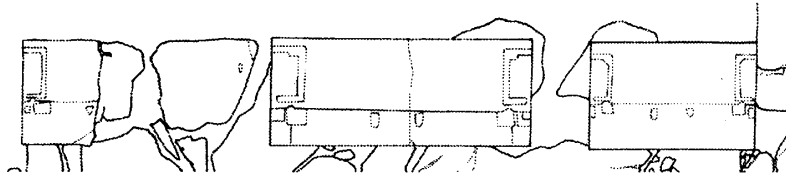


図2 北プロピロンの敷居 平面図

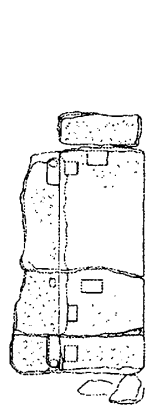
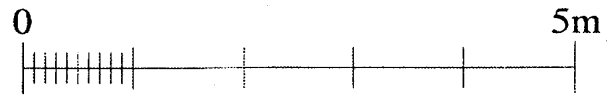


図3
セバステイオン西翼部
前室の敷居 平面図

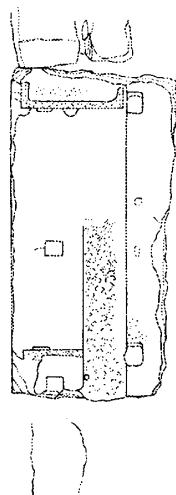


図4
セバステイオン西翼部
主室の敷居 平面図

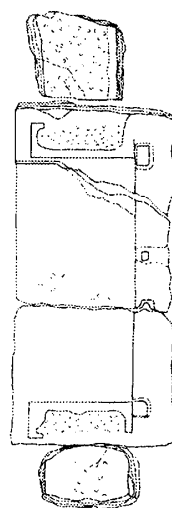


図5
セバステイオン東翼部
主室の敷居 平面図

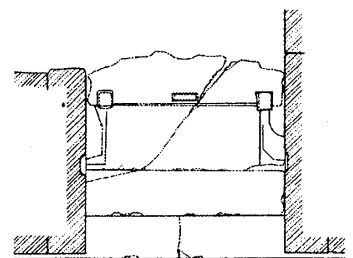


図6 南ストア
東翼部の敷居 平面図



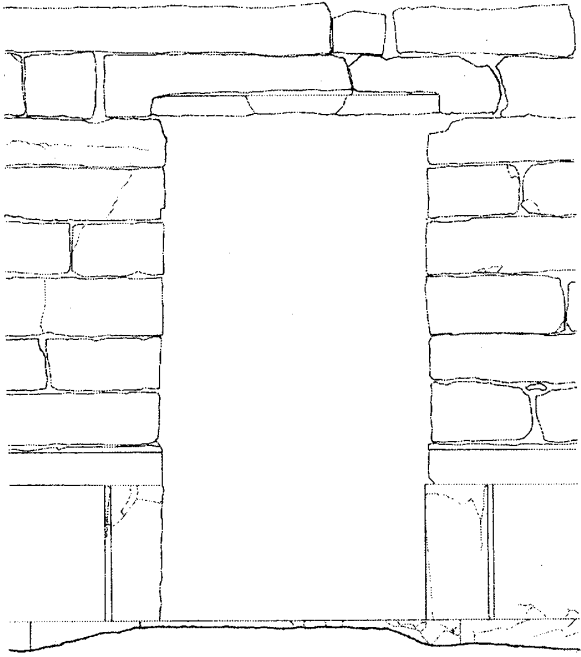
図7 北プロピロン 中央の敷居



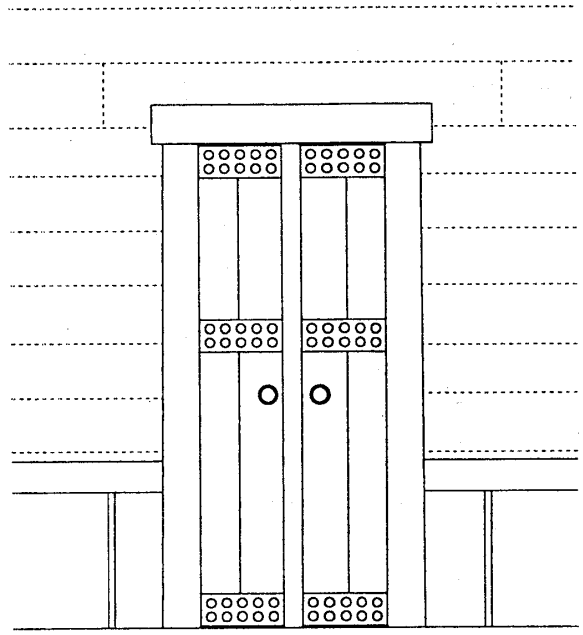
図8 セバステイオン西翼部 前室の敷居



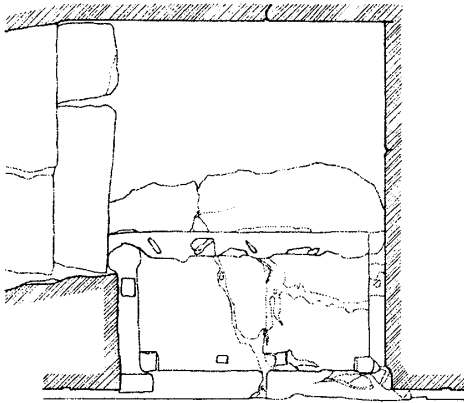
図9 セバステイオン東翼部 主室の敷居



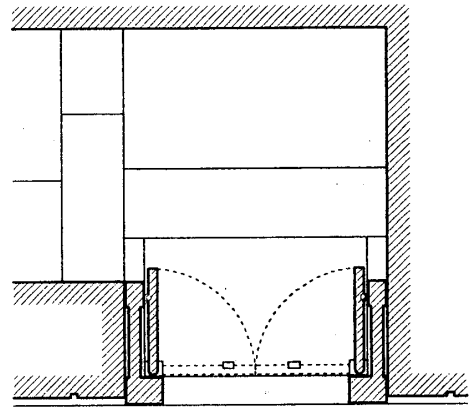
10a 現状 立面図



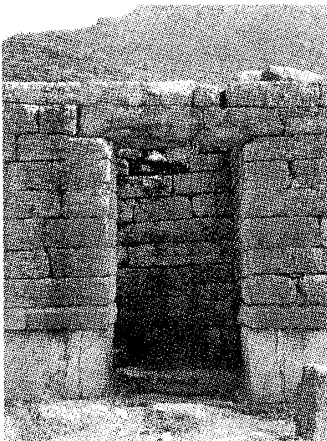
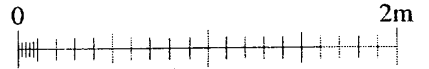
10b 復元案 立面図



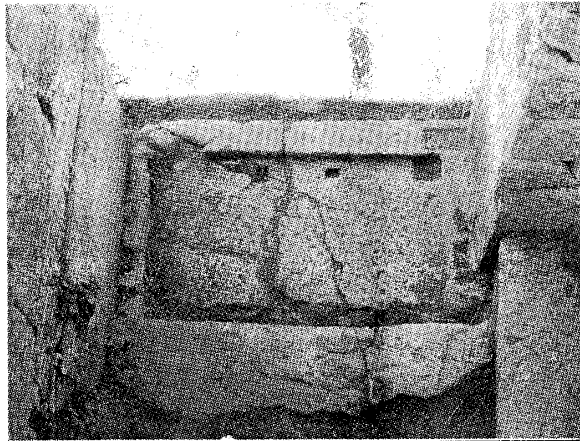
10c 現状 平面図



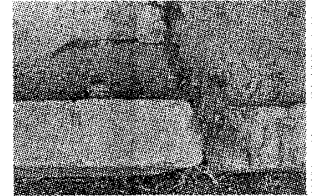
10d 復元案 平面図



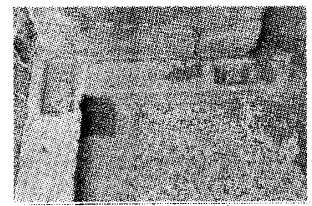
10e 西翼部 立面



10f 西翼部 平面 (図面とは逆向き)



10g 東翼部 門の穴



10h 西翼部 立柱と軸受け

図10 セバステイオン東西翼部階段室の入り口 現状図面、復元図、写真

2-3 セバステイオン西翼部階段室入り口の立面

セバステイオン西翼部階段室の入り口には立面を示すトイコペイト、オルソスタット、成層積みされた切石、さらにその上をまぐさ石が渡す形で残っている。トイコペイトから遺構上部まで3.202m、まぐさ石上部まで2.960m、下部まで2.625mとなっている。また入り口幅が1.388~1.360と上部にいくに従ってやや狭くなっている。

表2 敷居部材のサイズと扉の開き方

入り口	全体a×b (m)	扉の納まる部分a×b (m)
①	c.? \times 0.93	c.? \times 0.40
②	c.2.36 \times 0.97	c.2.36 \times 0.32
③	c.1.52 \times 0.96	c.1.52 \times 0.40
④	c.2.14 \times 1.07	c.2.14 \times 0.34
⑤	c.1.47 \times 0.85	c.1.470 \times 0.31
⑥	c.2.22 \times 1.05	c.2.22 \times 0.29
⑦	1.388 \times 0.891	1.196 \times 0.740
⑧	1.412 \times 0.894	1.218 \times 0.748
⑨	c.? \times 0.73	c.? \times 0.38
⑩	1.257 \times 0.718	1.257 \times 0.298

表3 立枠の形状とサイズ

入り口	形状	サイズ		a×b (cm)	
		西側	東側	西側	東側
①	コの字型	西側	c.21 \times 44	西側	—
②	コの字型	西側	c.30 \times 50	西側	c.27 \times 50
③	コの字型	西側	c.18 \times 40	西側	c.18 \times 40
④	コの字型	北側	—	南側	17.8 \times 63.0
⑤	コの字型	—	—	—	—
⑥	コの字型	—	22.2 \times 64.0	—	22.3 \times 63.3
⑦	矩形	西側 前	16.5 \times 9.1 D=1.8	東側 前	—
		西側 後	6.5 \times 10.5 D=1.9	東側 後	—
⑧	矩形	西側 前	14.0 \times 7.5 D=2.4	東側 前	13.0 \times 7.8 D=2.0
		西側 後	3.9 \times 4.6 D=2.0	東側 後	4.2 \times 7.5 D=1.8
⑨	コの字型	西側	—	東側	—
⑩	コの字型	—	12.5 \times 39.0	—	13.9 \times 39.0

表4 軸受けのサイズ

入り口	サイズ		a×b (cm)	軸受け心間距離(m)
	西側	東側		
①	c.17 \times 11	—	—	—
②	c.17 \times 13	c.16 \times 13	c.1.875	c.1.225
③	c.12 \times 11	c.13 \times 10	—	—
④	北側	南側	10.0 \times 13.0 D=4.0	1.601
⑤	8.2 \times 17.4 D=4.9	74.0 \times 19.6 D=4.4	—	1.296
⑥	10.3 \times 12.6 D=4.8	10.3 \times 13.5 D=4.6	—	1.642
⑦	西側 9.6 \times 8.2 D=2.3 (10.6 \times 8.6)	東側 5.6 \times 9.6 D=2.5 (7.8 \times 9.6)	—	1.120
⑧	西側 7.9 \times 8.1 D=2.4 かぶり 無	東側 10.5 \times 8.0 D=2.4 かぶり 有	—	1.121
⑨	8.8 \times 10.8 D=1.8	—	—	—
⑩	10.6 \times 9.5 D=2.1	9.6 \times 11.4 D=4.2	—	1.024

* 「c」のつく数値は、図面を三角スケールで測った値。

*()内はかぶりを含めたサイズ。

*構成要素(a×b)



- 1) 熊本大学助教授 工博
- 2) 都城工業高等専門学校教授 博 (工)
- 3) 熊本大学大学院自然科学研究科 学生

3. セバステイオン西翼部階段室入り口の復元

前述したように、セバステイオン西翼部階段室の入り口が平面、立面共よい状態で残っていることから、この入り口の復元を試みるものとする。(図7,8,9,10)

復元に際し、当初は左右対称で建造されたと推測することから、構成要素の値は残りのよい敷居の西側部分を東側に適用した。復元数値は、敷居部材1.388 \times 0.891m、扉の納まる部分1.176 \times 0.740m、立枠前方16.5 \times 9.1cm、後方6.5 \times 10.5cm、軸受け9.6 \times 8.2cm、門の穴5.8 \times 3.6cmとなり、高さ方向に関しては前項の記述通りである。

・立枠 前方と後方に位置する矩形の痕跡に木造の柱を立て、さらにその間を木の板でつなげたものと思われる。この時立枠は全体でL字型をなし、同時に軸受けを隠す役割を果たす。立枠の長手方向は約0.650m、短手方向は約0.195mとする。

・軸受け 詳しい仕様については、オランダスのパルテノン神殿西面の入り口周りの復元を参考にした。木造の柱、地面の窪み共にブロンズまたは鉄の金具がかぶさり、この組み合わせで扉が回転したと考える。

・門 扉の厚みと穴との関係から、直径約2.5cm、丸形の長い棒状で、半円部分は扉に埋め込まれるようになり上部と下部の2箇所を門錠により留められていたと考える。

・扉 扉の大きさと入口の重要度から考えると、プロピロンのような豪華な装飾はなく、木製の板を繋げた簡素な扉であったと推測する。ヴィトルヴィウスより扉の横框は高さを上下に2:3に分割する。厚みは約5.0cmとする。

4. まとめ

今回の研究では、メッセネのアスクレピオス神域の10の入口についての現状報告と比較を行い、一部においては復元を試みた。古代地中海建築において、入り口周りに関する詳しい研究書はない。今後の課題としてメッセネはもとより、他の遺跡に関する入り口周りについても調査、復元の必要がある。

- 注)
- 1) 伊藤重剛他、「デルフィ古代建築調査1994-1996 中間報告 アテナ・プロナイア神域 マッシリア人の宝庫・ドリス式宝庫・トロス」熊本 大学デルフィ遺跡調査団 平成9年3月 pp.27-29, pp.133-136
 - 2) 森田慶一訳「ウィトルヴィウス建築書」東海大学出版会、昭和51年 第4巻6章1-5
 - 3) Sterling Dow, 「The American Excavations in the Athenian Agora, Hesperia: Supplement I 1937, PRYTANEIS A STUDY OF THE INSCRIPTIONS HONORING THE ATHENIAN COUNCILLORES」 p.76, rep. 1975

Assoc. Prof., Kumamoto University, Dr. Eng.
Prof., Miiyakonojyo National College of Technology, Dr. Eng.
Graduate School of Science and Technology, Kumamoto University